

小松亮太 バンドネオン 四重奏

出演者プロフィール



こまつ りょうた

小松亮太 (バンドネオン)

1973年 東京 足立区出身。さそり座AB型。洗足学園音楽大学客員教授。高校時代より才能を発揮し、伝説的歌手である藤沢嵐子の91年のラスト・ステージではバンドネオン・ソロで伴奏を担当。

98年のCDデビューを果たして以来、カーネギーホールやアルゼンチン・ブエノスアイレスなどで、タンゴ界における

記念碑的な公演を実現している。

アルバムはソニーミュージックより20枚以上を制作。「ライブ・イン・TOKYO〜2002」がアルゼンチンで高く評価され、03年にはアルゼンチン音楽家組合(AADI)、ブエノスアイレス市音楽文化管理局から表彰された。15年にリリースした大貫妙子との共同名義アルバム『Tint』は、第57回輝く日本レコード大賞「優秀アルバム賞」を受賞。

08年にはアストル・ピアソラの幻のオラトリオ「若き民衆」を東京オペラシティで日本初演。13年にはピアソラの「ブエノスアイレスのマリア」をピアソラ元夫人の歌手アメリータ・バルタルと共演し、ライブアルバムをリリース。タンゴ界にとどまらず、ソニーのコンピレーション・アルバム「image」、同ライブツアー「live image」には初回から参加。作曲活動も旺盛で、フジテレビ系アニメ『モノ怪』OP曲「下弦の月」、TBS系列『THE世界遺産』OP曲「風の詩」、映画「グスコブドリの伝記」(ワーナーブラザース配給・手塚プロダクション制作)、「体脂肪計タニタの社員食堂」(角川映画)、NHKドラマ「ご縁ハンター」のサウンドトラックなど多数を手掛けている。

これまでのタンゴ界以外での共演者は、ミッシェル・ルグラン、バホフォンド、イジョク(Juck Lee)、ジェイク・シマブクロ、ブロードスキー・カルテット、ミルバ、上妻宏光、石井一孝、NHK交響楽団、小曽根真、織田哲郎、佐渡裕、葉加瀬太郎、宮沢和史など。タンゴ界ではビクトル・ラバジェン、ラウル・ラビエ、マリア・グラニーニ、オスバルド・ベリンジェリ、フアン・カルロス・コーベス、コロール・タンゴ、藤沢嵐子など。

16年「小松亮太meetsワールドバンドネオンプレイヤーズ」開催、17年にイ・ムジチ合奏団と共演するなど、海外アーティストとの公演も重ねている。21年には430ページに及ぶ書籍「タンゴの真実」(旬報社)を上梓。NHK Eテレ「クラシック音楽館“ピアソラの世界”」では演奏とトークを務めた。

23年の1月から約4ヶ月に渡り、浜松市楽器博物館にて「小松亮太監修 蛇腹楽器展 おくり魅かれる風・音〜バンドネオンの謎と真実〜」を開催、多数のイベントや講座にも出演した。

2021年よりラジオ番組「小松亮太の音楽世界旅行」の司会進行も務めている。

<https://ryotakomatsu.net/>



©Haruka Akagi

きたむら さとし

北村聡 (バンドネオン)

関西大学在学中にバンドネオンに出会い小松亮太、フリオ・パネに師事。世界各国のフェスティバルに出演。これまでに館野泉、鈴木大介、波多野睦美、川井郁子、EGO-WRAPPIN'、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団と共演。

NHK「青天を衝け」、映画「マスカレード・ナイト」をはじめ様々な録音に参加している。

喜多直毅クアルテット、クアトロシエントスなど数多くの楽団に参加、活動中。



すずき たかとき

鈴木崇朗 (バンドネオン)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。バンドネオンを小松亮太氏に師事。小松亮太&オルケスタティビカのメンバーとして南米ツアーに参加。単身アルゼンチンに留学し、オスバルド・モンテス氏、フリオ・パネ氏、ネストル・マルコーニ氏に師事。

2014年、2015年とアンドレス・リネツキ楽団のメンバーとして国内ツアーに参加。日本テレビ系連続ドラマ「家売るオンナ」、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」を始めとするドラマ、アニメ等の劇中曲の演奏に参加。現在国内外でのコンサート、レコーディング等で活動中。



はやかわ じゅん

早川純 (バンドネオン)

東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。ジュズビリエ音楽院ジャズDEMを満場一致の一位で取得。2013〜2015年の期間、パリを拠点としてヨーロッパ各地で演奏活動を展開。バンドネオンをJ.J.モサリーニに師事した。2022年イタリア・サルデーニャ島で行われたバンドネオンコンペティションにおいて優勝。聴衆賞を同時受賞した。現在日本を拠点として、様々なプロジェクトを主宰しつつ、バンドネオンの可能性を独自のスタイルで追求している。

<http://hayakawajun.com>



たなか しんじ

田中伸司 (コントラバス)

18歳でコントラバスに出会い中博昭氏に師事、国立音楽大学卒業。82年より室内楽などを中心に演奏活動を開始。90年以降は数多くのスタジオワークに参加。

一方、91年にアルゼンチン・タンゴ界の巨匠、志賀清(Vn)、藤沢嵐子(Vo)の演奏に感銘を受けタンゴに傾倒。90年代 度々渡重し名手H.カバルコスの薫陶を受ける。志賀清、京谷弘司各氏のグループを経て、09年より小松亮太の各ユニットに参加。09年トリオ・セステ結成。19年にはP.エスティガリアのトリオで西日本ツアーを行う。



ふくい ひろき

福井浩気 (ギター)

2009年に渡仏し、ジュディカエル・ペロワに師事のもと、オルネー＝スー＝ボワ県立音楽院(パリ近郊)にて音楽研究資格、オー＝ド＝フランス高等音楽学校(リール)にて国家音楽家専門資格及び国家音楽教育資格を取得。在仏時には、リール近郊の音楽学校で約4年間ギター講師も務める。また、アルゼンチンギタリストのディエゴ・トロスマンやシロ・ペレス各氏の指導を得て、アルゼンチンタンゴの追求も行う上、バンドネオン奏者のルイズ・ジャリュと「Duo FUKUI-JALLU」を結成し、ミュールーズのタンゴフェスティバル「Le Printemps du Tango」やパリの「Tango Paris Banlieues」等に出演する他、フランス国内で多数演奏活動を行う。